

年間第 2 主日の説教

金 大烈 神父 2010 年 8 月 29 日 (日)

《尊敬と尊重》

主の平和！

今日の福音(ルカ 14・1、7-14)、の内容は二つに分けられます。一つは、「人の上に立ってはいけない。」と、もう一つは「返して貰うのを期待して人に物をあげてはいけない。」という内容です。

一つ目の話、「人の上に立とうとしてはいけない」ということは何の意味でしょうか。イエス様の「上席に座る為には末席に座りなさい」の意味はどういう意味でしょうか。上席が私たちが求めるべきであることだと仰ったことでしょうか。そうではありません。招待された人々があまりにも当たり前のように上座に座ろうとした姿が醜かったのです。それで心を痛めたと思います。ですからその人々の水準に合わせてイエス様は例え話をしたのです。イエス様の本当の心は同じ人間としての上下に何の意味があるのか、なぜ偉くなりたいのかを示したのです。結局人間の関係が崩れる一番大きい原因はなんでしょうか。それは人の上に立とうとするその気持ちが大きくなり、相手を傷つけたり、逆に傷をもらったりする関係から悪循環的に続いてしまうのではないのでしょうか？

皆様良くご存じの単語についてお話します。漢字圏の国で使う言葉で《尊敬》と言う単語があります。そして似た単語で意味の少し違う《尊重》と言う単語もあります。

しかしラテン語をその語源にするアルファベットを使う国では一つの単語しかありません。英語では《Respect》、スペイン語では《Respecto：レスペット》ポルトガル語では《Respeito：ヘスペイトゥ》という単語です。全て同じ意味です。しかし漢字を使う国では《尊敬》と《尊重》の二つの言葉の意味を分けて説明します。ですので、アルファベットを使う国の人々はこの二つの言葉を聞くと区別がものすごく難しいです。しかし私達はこの二つの単語の意味がわかりますね。《尊敬》という言葉は何かのいい模範を見せたり、自分が出来ない良い事を行った人に自然に頭が下がる心を言います。そして、《尊重》という言葉は人に対して使う場合、その人が持っている尊さを認める心です。今日の福音で話されている大事なポイントは《尊重》です。その人自身が持っている人格・心・神様からの愛・計画・御旨の働きを認める事がカトリック的に言う《尊重》です。私達の関係が崩れるのは《尊重》が出来なくなる為です。例えば、色の違い、持っているものの違い、それによって《尊重》するか《軽んじる》か、人間は自動的に判断してしまう癖があります。

皆様もう一度考えて下さい。《尊敬》することは私達にとって自然に出来る事です。意識的に尊敬しようと思って、その気持ちが生まれるものではありません。しかし、《尊重》は意識的に、この人にも神様が働いていること、この人の為にも泣いている母がいること、この人も人間として同じ尊い価値を持っていることを認めながら向かう心が無ければ、いつも私達は「偉い」とか「馬鹿」の様な差別の言葉に縛られて生きてしまいます。

皆様、奥さん、御主人、友達、に対して《尊重》していましたか？ いつも人間的で社会的な計算によって相手を見下したり、軽んじたり、高めたりしている生き方ではなかったでしょうか？ 若しそうでしたら、それは間違いです。イエス様が望んでいる生き方は心と心の出会いです。その中で生じる絆を見下したら、絶対望ましい関わりが出来ない事をはっきりおっしゃっています。上下の意味ではありません。偉くなりたければ、へりくだる心になりなさいと言う意味でもありません。なぜ、同じ人間の間で偉くなる事、低くなる事、それにどのような価値があり、意味があるのかを私達に問いかけている言葉だと思います。私達が出会うあらゆる関わりに対してどのような心の目で見ているかを考えて見ましょう。

私が相手を《尊重》すれば全ての人に尊重されます。《尊敬》まで行かなくてもいいのです。少なくとも全ての人・人格・心に対して尊重する実行力が必要だと思いました。

二つ目の話は、「物を貸す時は返せない人に貸し、その人を助けなさい」というイエス様の話です。この言葉の中で私達が錯覚する可能性のある言葉についてイエス様は話しています。私達は良く《施す》という言葉を使います。しかし、《施す》という真の意味は返してもらうのを期待しないで、差し上げることを意味します。

例えば皆さんが他人に助けを求められているいろいろな事をやってあげて、自分にも同じように返してもらおうという気持ちがあったら、それは施しではありません。イエス様がおっしゃった施しの真の意味を私達は真剣に考えなければなりません。無条件でその人に必要なら自分の物・手(労力)も渡します。それが真の施しである事を意識しなければなりません。しかし私達の弱さは、助けてあげた時にお礼が無かったり、または逆の態度で表わされたら心が痛くなります。しかしそういう心の感情の働きからも私達は解放されなくてはなりません。無条件で施しする心があれば純粹にして下さい。それが、今日イエス様が私達に伝えたい一つのメッセージだと思います。